

第68回

鎌倉新能

令和8年

10月9日(金)

開場17時／開演18時

会場

鎌倉宮 境内(鎌倉市二階堂154)

※雨天時は鎌倉芸術館 大ホール(鎌倉市大船6-1-2)



当公演は字幕解説「能サポ」対応公演です

※有料サービス／日・英 対応／タブレット貸出

※「黒塚」のみの実施となります

第21回 鎌倉芸術祭参加

KAMAKURA TAKIGINOH

演目

素謡

翁

金春 憲和
(金春流81世宗家)

狂言

清水

野村 裕基
(和泉流)

能

黒塚

金春 安明
(金春流80世)

チケット販売

〈全席指定・解説入りパンフレット付き〉

S席 12,000円 / A席 9,000円(後方部ひな壇) / B席 7,000円

■申込／CNプレイガイド 令和8年8月22日(土)10時より TELまたはWEBで予約受付

☎0570-08-9999 WEB www.cnplayguide.com/kamakura-takiginoh/

ファミリーマートマルチコピー機でも直接購入可能

CN
プレイガイド



鎌倉新能
特設サイト



新能

第21回 鎌倉芸術祭参加
KAMAKURA TAKIGINOH

1959年の第1回より歴史を重ねてきた鎌倉新能は、今回で68回目を迎えます。鎌倉新能は、発祥の地とされる奈良・京都に続く歴史を有し、全国でも有数の歴史ある新能として今日まで受け継がれてきました。

会場は、1869年に明治天皇の勅命によって創建された鎌倉宮。境内には周囲の杜を背景に特設能舞台が設けられ、月明かりに照らされる中、そよ風や虫の音、薪のほてる音が静かに響き渡り、観客を幽玄の世界へと誘います。

本年は、金春流による素謡「翁」と能「黒塚」、和泉流による狂言「清水」を上演いたします。歴史ある鎌倉宮を舞台に繰り広げられる、秋の一夜ならではの幽玄の世界をぜひご堪能ください。

素謡 翁

〈翁〉は祝福を祈願する儀式的な演目。古くから寺社で奉納として舞われ、能・狂言では大切に扱われている。若者の千歳、老人の翁、狂言方の三番叟が、天下泰平・国土安穩・五穀豊稔を祈り、謡い舞う。第68回は千歳と翁の部分の謡のみで聞かせる素謡での上演となる。

狂言 清水

主人(アド)が、茶会の水を汲みに野中の清水へ行くよう太郎冠者(シテ)に命じる。太郎冠者は行くのを嫌がるが、主人の秘蔵の桶を持たされて渋々と清水へ向かう。不満に思う太郎冠者は、桶を道端に捨て置き、「痛い、痛い」と叫びながら逃げ帰る。太郎冠者は鬼に襲われたと告げるが、主人は桶を心配する。太郎冠者が桶を取りに行こうとしないので、主人は怒って清水へ行く。そこで太郎冠者は先回りして主人を待ち構え、鬼の面を掛けて脅すが……。鬼に扮した太郎冠者の演技が見どころの一つ。鬼の面は狂言面の「武悪」。

能 黒塚

諸国を廻り修行をする阿闍梨祐慶(ワキ)が、従者(ワキツレ)を伴い陸奥安達ヶ原を訪れる。祐慶が一軒の庵に宿を乞うと、女(前シテ)が一行を内へ招き入れる。女は梓枰輪(糸車)で糸繰りのさまを見せ、憂き世の辛さを謡う。やがて夜が更け、寒さが増したので、女は薪を集めに行こうとする。女は「闇の中をけつて見てはいけない」と祐慶に言い、山へ出かけて行く。しかし祐慶が眠りにつくと、能力「山伏の召使」(アイ)が闇をこっそりぞいてしまう。闇に死体が山と積まれているのを見た能力は、祐慶に報告。驚いた一行は逃げ出すが、鬼女(後シテ)となった女が約束を破ったことを恨み、襲いかかる。安達ヶ原の黒塚には鬼が住むという伝承を基にした能。単に恐ろしいだけではなく、人間的な苦悩をも感じさせる鬼女が登場する。女が梓枰輪を回しながら謡う「糸尽くし」の歌も聞きどころ。

解説 中司 由起子(法政大学能楽研究所兼任所員)

催しに関する注意事項です。必ずお読みください。

- 座席はすべて指定ですが、位置の希望はお受けできません。●チケットの販売は売り切れをもって締め切りとさせていただきます。●チケット購入後の変更は一切できません。●中止の場合の旅費等の補償はできません。ただし、チケット料金の払い戻しは行います。●出演者、演目等は、やむを得ない事情により変更となる場合がございます。その場合でも、チケットの払い戻しはいたしかねますので、あらかじめご了承ください。●開演後の入場については制限させていただく場合があります。●小学生以下の入場はできません。●ベット連れでの入場はできません。●会場内での撮影、録音はできません。●駐車場の用意はありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。●演能中の飲食はご遠慮下さい。